

トップページ：<http://mylibrary.maeda1.jp/>

ブログ「石油と中東」（日本語）：https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

マイライブラリーNo. : 0604

(注)本稿は2024年6月14日から20日まで4回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2024.6.21

OPEC+(プラス)の協調減産を分析する

6月2日、OPECとその同調国(いわゆるOPECプラス)の閣僚級会合(略称ONOMM)が開催され、2022年11月以降、3段階にわたり実施された減産を年内まで延長すると共に、2025年に徐々に減産を緩和し各国が新しい生産水準に移行することが決められた。

本稿では(1)過去3度の減産量を略述し、(2)今回のONOMMで決定された来年1-12月の生産水準とOPEC6月月次レポートによる今年5月の各国の生産量を比較し、今後のOPEC+の増産の動きを検証する。さらに(3)減産体制を見直す要因となった原油価格の動向、及び(4)サウジアラビア(及びロシア)が主導する減産体制見直しに対する増産推進派の造反などOPECプラスを取り巻く環境の変化について分析を試みる。

なお従来OPECの構成国は13カ国であったが、イラン、リビア及びベネズエラ3カ国は協調減産に加わっておらず、またアフリカの有力産油国アンゴラは自国の割り当て生産量を不満として昨年OPECを脱退している。従ってOPECプラスの協調減産体制は以下の各国によって成り立っている。

OPEC9カ国：サウジアラビア、イラク、UAE、クウェイト、ナイジェリア、アルジェリア、コンゴ、エクアトール・ギニア、ガボン

非OPEC10カ国：ロシア、カザフスタン、メキシコ、オマーン、アゼルバイジャン、マレーシア、ブルネイ、バハレーン、スーダン、南スーダン

1. 2022年10月～2023年6月協調減産の推移 (表 [1-D-2-37](#) 参照)

現在のOPECプラス協調減産は2022年10月のONOMMで決定された。同年8月の生産量を基準にOPEC10カ国(注、その後脱退したアンゴラを含む)と非OPEC10カ国が11月以降2023年12月まで合計200万B/Dを減産することとなった。この時、サウジアラビアとロシア両国は共に526千B/Dの減産を受け入れ全体の過半を負担した¹。

2023年に入りロシアが50万B/Dの自主減産を打ち出した。4月の合同閣僚級モニタリング委員会(JMMC)でサウジアラビアなど8カ国もこれに追随、これら9カ国は5月以降年末まで166万B/Dの自主減産を行うことを決定した。サウジアラビア及びロシアの減産量は共に50万B/Dであり、2カ国で全体の60%を負担している²。

しかし 2 度の減産でも石油需要は伸びず価格も低迷したため、6 月にはサウジアラビア主導のもと 8 カ国が 3 度目の自主減産を実施した。全体の減産幅は 220 万 B/D であり、このうちサウジアラビアは 100 万 B/D、ロシアが 50 万 B/D を負担し、全体の 7 割弱を占めている³。

これら 3 度にわたる減産の合計量は 586 万 B/D に達する。このうちサウジアラビアは 2,026 千 B/D であり全体の 3 分の 1 を占め、ロシアは 1,526 千 B/D で同じく 4 分の 1 を占めている。両国を合わせると実に全体の 60% をサウジアラビアとロシアが負担しているのである。因みに OPEC6 月々次レポートによればサウジアラビアとロシアの生産量が 22 カ国の合計生産量に占める割合は 44% である(詳しくは次項参照)。このことから現在の OPEC プラスの減産体制はサウジアラビアとロシア、特にサウジアラビア一国に強く依存していることがわかる。

2. 来年の生産レベル(今回決定事項)と今年 5 月の各国生産量(OPEC 月報)の比較

6 月 2 日の OPEC プラス閣僚会合(OPEC and non-OPEC Ministerial Meeting, 略称 ONOMM)では減産幅を縮小することが合意された。同時に来年の OPEC プラスの生産量を 3,973 万 B/D とし、各国毎の望ましい生産水準(Required Production Level for 2025)も公表された⁴。(注、OPEC 加盟国のうちイラン、リビア、ベネズエラは協調減産の対象外、アンゴラは昨年 OPEC 脱退)

3,973 万 B/D の国別内訳を見ると、最も多いのはサウジアラビアの 1,048 万 B/D で、ロシアの 995 万 B/D がこれに続いており、両国だけで全体の 49% を占めている。3 位以下の主な国とその生産量は、イラク(4,431 千 B/D)、UAE(3,519 千 B/D)、クウェイト(2,676 千 B/D)、メキシコ(1,753 千 B/D)、カザフスタン(1,628 千 B/D)、ナイジェリア(1,500 千 B/D)、アルジェリア(1,007 千 B/D) などである。

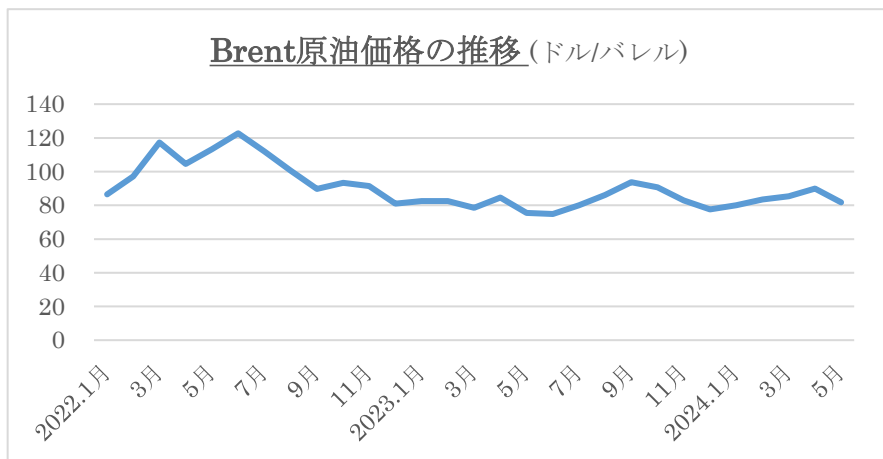
6 月 11 日には OPEC 事務局から月例レポートが刊行された。レポートでは OPEC プラスの全対象国、即ち OPEC12 カ国及び非 OPEC10 カ国の 3,4 及び 5 月まで 3 カ月の月間生産量が公表されている。因みにこのような全 OPEC プラスの国別生産量が公表されるようになったのは 5 月の月例レポートからである。

これによれば今年 5 月の OPEC・非 OPEC22 カ国の合計生産量は 4,108 万 B/D であり、内訳は OPEC(12 カ国)2,663 万 B/D、非 OPEC(10 カ国)1,445 万 B/D である。主な国別ではロシア 918 万 B/D、サウジアラビア 9 百万 B/D、イラク 420 万 B/D、イラン 323 万 B/D、UAE294 万 B/D、クウェイト 242 万 B/D、メキシコ 163 万 B/D などである。なお協調減産に加わっていないイラン(323 万 B/D)、リビア(117 万 B/D)及びベネズエラ(82 万 B/D)を除くと、合計生産量は 3,585 万 B/D であり、内訳は OPEC 9 カ国が 2,141 万 B/D、非 OPEC10 カ国が 1,445 万 B/D となる。

5 月の実生産量と来年の生産量(上記)を比較すると、OPEC プラス 19 カ国全体で今後 2025 年 12 月までに生産量が 387 万 B/D 増える計算になる。OPEC プラスから見ればそれだけ減産を緩和するということである。国別の減産緩和量は、サウジアラビアの 148 万 B/D(900 万 B/D→1,048 万 B/D)を筆頭に、ロシア 77 万 B/D(918 万 B/D→995 万 B/D)、UAE 58 万 B/D(294 万 B/D→352 万 B/D)、ク

ウエイト 26 万 B/D(242 万 B/D→268 万 B/D)、イラク 24 万 B/D(420 万 B/D→443 万 B/D)などが比較的大きな減産緩和量を確保している。特に UAE がクウェイト、イラクなど他の湾岸産油国に比べ優遇されていることが特徴的である。

3. 原油価格の推移(2022 年夏～2024 年現在)



OPEC プラスの協調減産の見直しに最も大きな影響力を与えるのは石油価格の動向である。米国 EIA の月別統計で見ると、2022 年 1 月に 87 ドル/バレルであった Brent 原油価格は 3 月に 100 ドルを突破、6 月には 123 ドルまで高騰したが、その後急速に下落、9 月には 90 ドルと年初の水準に逆戻りした。

OPEC プラス最大の産油国であるサウジアラビアは財政が均衡する原油価格は 85.8 ドルと言われ価格の下落に敏感である。またウクライナとの戦争で戦費調達に頭を悩ませるロシアも原油価格の下落を見逃すことはできなかった。

そこで両国は OPEC プラスの全加盟国に呼びかけ 11 月以降 2 百万 B/D の協調減産を行うこととした。しかしその後も原油価格は下げ止まらず同年 12 月にはついに 81 ドルまで下がった。減収分を増産で補おうとする一部加盟国の議論を抑え、ロシアとサウジアラビアは更なる減産による価格アップを狙った。その結果が 2023 年 5 月からの 9 カ国による 166 万 B/D 自主減産である。これにより原油価格は幾分上向き始めた。そこでサウジアラビアは更なる追加措置として 100 万 B/D 自主減産を率先して実施、他国にも呼びかけ、2022 年 6 月、8 カ国による 220 万 B/D の追加減産を推進した。

3 度にわたる合計 586 万 B/D の減産により今年 4 月に原油価格は 90 ドル/バレルまで戻ったものの現在は一進一退を繰り返している状況である。このことは OPEC プラスの価格支配力が低下していることを意味している。かつて 1970 年代の二度にわたる石油ショックの頃、OPEC は世界のエネルギー市場を意のままに操っていたが、現代では OPEC の原油供給シェアが低下しただけでなく、原油から天然ガス、さらには自然エネルギーなどエネルギー市場を取り巻く環境が変化し、OPEC プラスの神通力も衰えた。このことが次項に述べる通り OPEC プラス自身の結束力を弱めているように見受けられる。

4. 減産反対派の造反及び OPEC プラス外部環境の変化

OPEC プラスの 2 大産油国サウジアラビア及びロシアは 1 年足らずの間に 3 回の減産を主導した。これに対して他の加盟国が唯々諾々として従った訳ではない。最初の減産(2022 年 11 月)では OPEC プラスの全対象国が足並みを揃えたものの、2 回目(2023 年 4 月)及び 3 回目(同年 6 月)の減産は一部加盟国の自主減産にとどまったことがそのことを証明している。

因みに 2 回目及び 3 回目の自主減産に同調しなかった国は OPEC 加盟国ではアンゴラ、コンゴ、エクアトル・ギニア、ナイジェリアの 5 か国であり、非 OPEC ではアゼルバイジャン、バハレーン、ブルネイ、マレーシア、メキシコ、スーダン及び南スーダンの 7 カ国である。

一見してわかる通り OPEC 加盟の 5 か国はいずれもサブサハラ(アフリカサハラ砂漠以南)の国々である。これら 5 カ国が閣僚級会合で協調減産や自主減産に反対し続けたことはメディアでもたびたび報道され、OPEC の不協和音が高まっていることを推測させた。それを象徴する出来事がアンゴラの OPEC 脱退であった。

OPEC 内部では更に別の造反の動きが表面化した。UAE による増産要求である。近年、世界では石油のような化石エネルギーから太陽光、風力などの自然再生エネルギー或いは原子力への移行が叫ばれてきた。しかし最近では経済性或いは効率性などの面から石油の時代がまだしばらく続くとの考えが支配的になっている。その結果、石油の新規開発または増産投資に目が向けられ始めた。石油の増産余力を持っている UAE は OPEC プラス諸国に自国の増産要求を突き付けたのである。

UAE が増産要求するもう一つの隠れた理由は、協調減産の枠外にあるイラン或いはベネズエラの原油生産が増産傾向にあることにもありそうだ。さらに米国がシェールオイル・ガスを含めた世界一のエネルギー生産国としての覇権を唱えていることも UAE を刺激しているであろう。UAE は今回(6 月)の会合で来年 1 月から 9 月までの間 30 万 B/D 増産することが認められた。一方、ロシアは欧米諸国の禁輸制裁に対して中国やインドなどへの抜け道輸出でウクライナ戦争の戦費獲得に余念がない。OPEC プラスの盟主とは言えロシアがいつサウジアラビアと袂を分かつかわかわからない。

今やサウジアラビアは OPEC プラスの中で孤立状態にある。全体の減産量 586 万 B/D のうち 3 分の 1 に相当する 203 万 B/D の減産を背負い込み貧乏くじを引いているのが現在のサウジアラビアの姿である⁵。同国のやせ我慢がいつまで続くのか状況を注視する必要がある。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedal@jcom.home.ne.jp

OPEC プラス協調減産の推移と国別生産枠(Required Production Level)(2022 年 10 月～)

(1,000 B/D)

国名	2022 年 8 月 Required Prod. (基準値)	a. OPEC プラス 協調減産(*1)	b. 9 カ国自主 減産(*2)	c. 8 カ国自 主 減産 (*3)	減産量合計: (a+b+c)	2025 年 1-12 月 Required Prod. Level(*4)
アルジェリア	1,055	▲ 48	▲ 48	▲ 51	▲ 147	1,007
アンゴラ	1,525	▲ 70	-	-	(OPEC 脱退)	(OPEC 脱退)
コンゴ	325	▲ 15	-	-	▲ 15	277
エクアトール・ギニア	127	▲ 6	-	-	▲ 6	70
ガボン	186	▲ 9	▲ 8	-	▲ 17	177
(イラン)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)
イラク	4,651	▲ 220	▲ 211	▲ 223	▲ 654	4,431
クウェイト	2,811	▲ 135	▲ 128	▲ 135	▲ 398	2,676
(リビア)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)
ナイジェリア	1,826	▲ 84	-	-	▲ 84	1,500
サウジアラビア	11,004	▲ 526	▲ 500	▲ 1,000	▲ 2,026	10,478
UAE	3,179	▲ 160	▲ 144	▲ 163	▲ 467	3,519
(ベネズエラ)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)	(対象外)
OPEC 9 小計	26,689	▲ 1,273	▲ 1,039	▲ 1,572	▲ 3,884	24,135
アゼルバイジャン	717	▲ 33	-	-	▲ 33	551
バハレーン	205	▲ 9	-	-	▲ 9	196
ブルネイ	102	▲ 5	-	-	▲ 5	83
カザフスタン	1,706	▲ 78	▲ 78	▲ 82	▲ 238	1,628
マレーシア	594	▲ 27	-	-	▲ 27	401
メキシコ	1,753	0	-	-	0	1,753
オマーン	881	▲ 40	▲ 40	▲ 42	▲ 122	841
ロシア	11,004	▲ 526	▲ 500	▲ 500	▲ 1,526	9,949
スーダン	75	▲ 3	-	-	▲ 3	64
南スーダン	130	▲ 6	-	-	▲ 6	124
非 OPEC 10 小計	17,167	▲ 727	▲ 618	▲ 624	▲ 1,969	15,590
OPEC プラス(協調減産 国)合計	43,856	▲ 2,000	▲ 1,660	▲ 2,200	▲ 5,860	39,725

OPEC+閣僚会合の動き

(*1)2022 年 10 月 5 日 OPEC+閣僚会合：200 万 B/D 協調減産（サウジ、ロシア▲526 他）

2023 年 2 月 10 日 ロシア自主減産(▲500)

(*2)2023 年 4 月 3 日 48th JMMC, OPEC6 カ国、非 OPEC3 カ国自主減産(サウジ▲500 他)

(*3)2023 年 6 月 4 日 OPEC+閣僚会合 2024 年 1-12 月全 20 カ国見直し & サウジ 7 月自主減

産(▲1,000)

2023年6月13日 ロシアの2024年目標生産量を9,828→9,949千B/Dに修正

2023年7月3日 サウジ▲1,000自主減産8月継続、ロシア8月▲500輸出削減表明。

2023年9月5日 サウジ、ロシア 自主減産年内継続表明

2023年11月30日 8カ国自主減産、アフリカ3か国見直し

(*4)2024年6月2日 減産延長

(*5)OPEC月報2024年6月号

¹ OPECプレスリリース :

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/7021.htm

https://www.opec.org/opec_web/static_files_project/media/downloads/Production%20table%20-%20033rd%20ONOMM.pdf

² OPECプレスリリース :

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/7120.htm

³ OPECプレスリリース :

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/7160.htm

https://www.opec.org/opec_web/static_files_project/media/downloads/Production%20table%20-%20035th%20ONOMM.pdf

⁴ OPECプレスリリース :

https://www.opec.org/opec_web/en/press_room/7337.htm

https://www.opec.org/opec_web/static_files_project/media/downloads/Production%20table%20-%20037th%20ONOMM.pdf

⁵ 図「[サウジアラビア原油生産量の推移\(2023.1-2024.5月\)](#)」参照。